

一般・特別会計決算特別委員会記録

[第3日目]

1 日 時 平成30年10月22日（月曜日）

開 会 午前 9時57分

散 会 午前11時48分

2 場 所 第3委員会室

3 出席者 9人

委員長 高見隆夫

副委員長 押田大祐

委 員 久保大憲

// 上野 蛍

// 高道秋彦

// 東 篤

// 尾上一彦

// 佐藤則寿

// 高田重信

4 欠席者 1人

委 員 江西照康

5 説明のため出席した者

【監査委員事務局】

事務局長	恒川 哲二
参事（事務局次長）	中島 善一

【企画管理部】

部長（選挙管理委員会事務局理事兼任）	西田 政司
部次長	前田 一士
部次長（行政改革・公共施設再編・人事管理担当）	田中 伸浩
参事（公共施設マネジメント・PPP推進担当）	渡辺 康裕
参事（政策秘書担当）	大沢 一貴
参事（ガラス美術館次長）	関野 孝俊
参事（ガラス美術館副館長）	木村 昌弘
企画調整課長	山本 貴俊
行政管理課長	大野 満
職員課長	杉本 周児
秘書課長	鎌田 泰史
広報課長	中村 敏之
情報統計課長	藤沢 晃
文化国際課長	片山 建
未来戦略室長	森 俊彦
富山外国語専門学校事務長	井上 剛秀
富山ガラス造形研究所事務長	野 恒寿
公文書館長	岡本 繁信
職員研修所長	高田 まどか
企画調整課主幹（調整担当）	開発 則幸

【財務部】

部長	奥村 信雄
理事（財務部次長（税務担当））	平垣 申明
理事（資産活用担当）	山本 純一
部次長	浦野 弘司
参事（納税課長）	奥沢 靖
参事（市民税課長）	高畠 利明
参事（債権管理対策課長）	吉武 稔
財政課長	清水 裕樹
管財課長	刑部 博規
契約課長	野嶽 誠司
工事検査課長	牧 雅浩
資産税課長	高柳 誠
用地課長	追分 禎一郎
税務事務所長	池田 太
税務事務所税務課長	加藤 康博
財政課主幹（調整担当）	鈴木 富勝

【出納課】

会計管理者	太田 泰文
出納課長	関谷 雄一

6 職務のために出席した者

【議会事務局】

議事調査課長代理	石黒 隆司
議事調査課主査	金井 沙織
議事調査課主事	北山 栞

7 会議の概要

- 委員長 ただいまから、一般・特別会計決算特別委員会を開会いたします。
- 本日は、江西委員から都合により欠席するとの連絡がございましたので、御報告いたします。
- 本日は、監査委員事務局、企画管理部、財務部所管分の決算審査を行います。
- なお、委員及び当局の皆さんに申し上げますが、質疑・答弁及び説明については、簡潔・明瞭に行っていただきますようお願いいたします。
- それでは、これより監査委員事務局所管分の決算審査を行います。
- 認定第1号 平成29年度富山市一般会計歳入歳出決算中、監査委員事務局所管分を議題といたします。
- これより、当局の説明を求めます。
- 監査委員事務局長 〔挨拶〕
- 監査委員事務局次長 〔主要施策成果報告書及び委員会資料により説明〕
- 委員長 これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

久保委員

おはようございます。それでは、何点か確認させていただきたいと思います。

まず、主要施策成果報告書などから確認できなかったのですが、定期監査であったり工事監査、または住民監査請求等が行われた際に、弁護士であったり、場合によっては公認会計士などの専門家に所見をお伺いしたり、本当にこれが大丈夫なのかというような確認作業をする際には、費用が発生するかと思います。その費用が実際にあったのか、なかったのかが読み取れなかったものですから、実績について教えてください。

監査委員事務局次長

費用につきましては、そういった疑問が生じた場合に相談をしたという事例はございませんので、当然費用につきましても発生しておりません。

久保委員

ちなみにそういう案件が生じた場合の費用は、予算的には確保されているのでしょうか。

監査委員事務局次長

特にそういう相談する事例がないということで、予算措置はしていないところです。

久保委員 もしもそういう案件が出た場合、監査をタイムリーに、適時行うためには、即座に委託等を行う必要が出てくる場合もあるかと思いますが、その場合はどのような対応になるのか、教えてください。

監査委員事務局次長 本市の監査委員は、識見監査委員が2名いらっしゃいますが、1名は民間企業の経営者で経営管理に詳しい方です。もう1名は常勤監査委員ということで、公共団体の財務監査について、豊富な経験を有する市のOBの方と、お二人がおられます。
そういう方に監査をしていただいている関係で、今までそういった外部に相談するという事例がないということで予算措置もしていないわけなのですが、相談するケースがあれば、報酬等で予算措置が必要になるだろうというふうに思っておりますので、補正予算が必要になると考えています。

久保委員 補正予算を組むということになりましたら、当然議案として議会側に、どのような内容で補正予算を組むのかというところまでの説明が入ってきますし、補正予算のタイミングによってはタイムリーな監査ができない可能性があるのではないかというふうに私は危惧を

しております。内部統制の強化というのは地方自治法の改正の中でも強くうたわれておりました、そういったことを鑑みますと、現状、平成29年度においては特段の問題が生じなかったということではありますが、次年度以降につきましては内部統制の強化も踏まえて、タイムリーに専門家に相談ができる、調査依頼ができる、またその報酬が払えるような体制をしっかりととっていただいて監査機能の充実をしていただきたいと思います。これは要望です。

高田委員 主要施策成果報告書107ページの工事監査実施状況の「外1件」の内容について教えてください。

監査委員事務局次長 これは、婦中地域のほうで天神橋のかけかえ工事があったものの工事監査を行っております。

高田委員 外1件であれば、その内容を書いておいてもいいと思うので、よろしくお願いします。それともう1点ですが、委員会資料2ページの不用額で旅費が出ておりますが、これは予定外に何かあったとかそういった一行けなくなったものなのか、それとも純粹に残ったも

のですか。

監査委員事務局次長

これにつきましては、北陸地区都市監査委員会定期総会というものが、富山県黒部市で開催されました。2日間にわたって出席していただくということで、監査委員4名と職員1名が1泊2日で定期総会に出席する予定でしたが、開催地が黒部市ということで、公用車で往復することができたものですから、当初予算を組んでおりました宿泊費等について、不用になったということがまずございます。もう1件、全国都市監査委員総会研修会というものが東京で開催されました。これも2日間で、監査委員4名が出席する予定でしたが、1名が所用により欠席されたということで、その分の宿泊費等が不用になったということ、その2点が大きな要因でございます。

委員長

ほかにありませんか。

〔発言する者なし〕

委員長

ほかにないようですので、以上で質疑を終結いたします。
これをもちまして、監査委員事務局所管分の決算審査を終了いたします。

監査委員事務局の皆さんは、退室願います。
説明員を交代いたしますので、しばらくお待ちください。

〔監査委員事務局退室／企画管理部入室〕

委員長 これより、企画管理部所管分の決算審査を行います。

認定第1号 平成29年度富山市一般会計歳入歳出決算中、企画管理部所管分を議題といたします。

なお、当局の皆さんに申し上げますが、答弁及び説明については、簡潔・明瞭に行っていただきますようお願いいたします。

これより、当局の説明を求めます。

企画管理部長 〔挨拶〕

企画管理部次長 〔主要施策成果報告書及び委員会資料により説明〕

委員長 これより、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

高道委員 初めに、ガラスの街づくりについて質問させていただきます。富山市ガラスの

街づくりプランは平成21年3月から策定されているわけですが、やはり歳出を見ても文化振興費とかガラス造形研究所費、ガラス美術館費など多岐にわたって事業をされておられます。

平成29年度におけるこのガラスの街づくりの成果について、お聞かせいただきたいと思っております。

企画調整課長

まず、市民へのガラスの普及・啓発という観点から、本市のガラスの街づくりの拠点の1つでありますガラス工房におきまして、多くの市民や観光客にガラスの制作体験の機会を提供しております。

お手元の主要施策成果報告書95ページ、2番目の富山ガラス工房経営状況の項目でございますが、ガラスの制作体験につきまして、平成29年度は1万3,084人の方が吹きガラスの制作を体験しておられます。累計をいたしますと第2工房を設置した平成25年度から5年連続、この制作体験者数が1万人を超えている状況でございます。

それから、こういう方々を含めまして、ガラス工房を訪れた方につきましては、この上の「総合計画 目標とする指標」というところに書いてありますが、平成29年度で10万

1,086人ということで平成24年度から6年連続10万人を超えているという状況でございます。

このようなことから、市民がガラスに触れる機会や、ガラスに対する理解が徐々に深まっているというふうに考えていることから、一定程度の啓発が図られていると考えているところでございます。

それから、ガラス工場の販売額につきましても、主要施策成果報告書95ページにございますように、平成29年度は8,673万3,000円余りと、年度によって多少のばらつきがございますが、平成26年度から7,000万円を超えているという状況でございます。

それから、ガラスの販路拡大という点でございますけれども、これにつきましては主要施策成果報告書95ページの中ほどにありますアートマネジメント推進事業としまして、国内外の美術愛好家や美術商を対象としたイベントでありますアートフェア富山ですとかアートフェア東京への出展—アートフェア東京は入場者6万人を超えるようなイベントであります—こうしたイベントに富山のガラス作家が、毎年数名でございまして出展しております、平成29年度は作品が40点で売

上げが150万円ほどあったというふうになっております。

このほか、星野リゾートですとか雅楽俱での販売など、さまざまなチャンネルを通じて販路拡大や市場開拓に努めているところでございます。

さらに、ガラス作家の独立支援、定着という点では、ガラス工房では毎年、ガラス造形研究所の卒業生の受入れを行っており、平成29年度は一現在も十数名の方が臨時・嘱託職員としてガラス工房に勤務しているという形で連携しております。

また、独立開業の支援といたしましては、8棟ございます個人工房の貸出しですとか、平成28年度からですが、市内で工房を構える方のアシスタントの雇用に対しての支援を行っておりまして、平成29年度は7名のアシスタントが雇用されているということでございます。

ガラス工房ができましたのは平成6年ですが、当初はガラス作家というのは数名程度というふうなお話でありましたけれども、現在は120名を超える作家が活動をしておられると推測しているところでございます。正確な人数まではちょっと把握しきれないのですが、大体そのくらいかなと推測しております。

それから、ガラス作家の人材育成という点では、主要施策成果報告書95ページの4番にありますように、海外のガラス工房の作家との相互交流なども実施しているところでございます。

このような取組みの結果としまして、平成29年度では富山第一銀行のCMに、関口 知宏さんとともに市内のガラス作家が登場したり、NHKのBS放送の「美の壺」という番組で富山のガラスが取り上げられたり、家庭画報をはじめとする雑誌で取り上げられるなど、富山のガラスの認知度というものが次第に高まっているというふうに考えているところであります。

加えて申し上げますと、平成30年度の話になりますが、株式会社三越伊勢丹のほうから、ガラスのブランドの共同開発について連携の申し出がありまして、これも鋭意取組みを進めているところであります。

今後ともガラス造形研究所やガラス美術館とも連携しながら、ガラスの街づくりを進めてまいりたいと思っております。

久保委員

何点かお伺いしたいと思います。

まず、主要施策成果報告書28ページ(8)選ばれるまちづくり事業についてお伺いした

いと思います。

前田次長のほうからは冒頭に、最少の経費で最大の効果を上げていく、具体的な指標を設定しづらいもの等については趣旨に基づいて行っているというふうな御説明がありました。が、そうは言うものの、一つ一つの事業に関しては、それぞれに個別の目標を立てて、それが達成できたかできなかったか、できなかった場合はどこに原因があったのか、また予想を上回る成果が出た場合にはどういうところがよかったのかということを常に確認していくということが、富山市当局の皆さんがおっしゃっておられるPDCAサイクルだと思っております。

例えばウェブ動画の再生回数は推移としてどうなのか、CAサミットの参加者数はどうなのかとか、あとはエンジン04についてもどのような成果を見込んでいて、それが達成できたのか、こういった細かい指標について事業ごとに設定をされているのか、まずは教えてください。

広報課長

選ばれるまちづくり事業につきましては、久保委員も言われたように定量的な目標を示すことが非常に難しいものでございます。ただ個々の事業につきましては、目標をきち

んと設定しております。

久保委員

私たちも議会、議員としてチェックする際にはそういった細かいところ—皆さんの努力が表現しづらいところがどのように推移をしていくのかというものもしっかりとチェックしていきたいと思いますので、また詳細については後日お伺いしたいと思います。

続いて、主要施策成果報告書30ページ（15）情報化の推進（ICTを活用した市民サービスの提供）についての中で、「オープンデータカタログサイトにてデータを公開し、平成29年度末現在の登録データ数は471個、ダウンロード数は31,962回」と書いてありますが、まずこの数について、当初皆さんが設定していた、予想していたものとは比べてどう考えておられるのか、所感をお伺いします。

情報統計課長

お尋ねの登録データ数、ダウンロード数につきましては、目標数値というものは設定してはございません。ただ、こちらのほうにつきましては、平成28年度にオープンデータサイトを構築してから、庁内を横断したワーキンググループを設置しまして、各課のほうにデータ提供の依頼をしてまいりました。

その結果、平成29年度末までに登録データ数が471個、ダウンロード数としましては3万回余りという、ある一定の需要があったと考えておりますので、今後とも定例的にワーキンググループを開きまして、さらなるデータの充実を図ってまいりたいと考えております。

久保委員

先ほどの話にも通じるところはあるのですが、やはり具体的な目標は、絵に描いた餅であってもしっかりと持っていたきたいと、それに対して皆さんがどうアプローチをしていくのか、そこで何がよかったのか悪かったのかという意識がはっきりと出てくると思います。一定の需要があったというのは、数字を見れば私もわかるのですが、この一定の需要というのが皆さんの想定を超えたものなのかそうでないのか、これは大変重要なことだと思いますので、今後はそういった、内部的な目標をしっかりと設定して、オープンデータの活用について御検討いただきたいと思います。

続いて(17)情報システム経費の抑制についてというところで、経費節減に向けていろいろな取組みに努められたというふうに書いてありますが、これは具体的な見込みの金額としてはどの程度と考えておられるのか教え

てください。

情報統計課長 まず、前田次長のほうから説明がございました、情報システム導入前審査の平成29年度の実績としましては、情報統計課のほうで183件の審査をいたしております。要求額といたしましては27億3,000万円余り、情報統計課の査定額としましては26億2,000万円余りで、査定額の差額、1億1,000万円余りの削減効果があったと思っております。

続きまして、情報システム調達前審査、これは実際に調達する前の審査でございます。こちらについては審査件数は51件、担当課の要求額としましては12億7,400万円、実際の契約額ベースといたしましては12億円余りで、7,400万円余りの削減効果があったと思っております。

久保委員 こうやって数字を聞くと素晴らしい成果が上がっているのだなと思います。この決算関係の書類からはなかなか読み取れないのが大変残念だなと思いますので、可能であれば次年度以降こういった素晴らしい成果については数字も合わせて、私たち議員が確認できるようにしていただければと思います。

主要施策成果報告書29ページ(12)ウの
共通パスポート事業の中で、富山県美術館な
ど6館を追加して利用促進に努めたとありま
すが、この6館を追加したことで、当初来場
者数の増加をどの程度見込んで、それに対
してどの程度成果として上がったのか教え
てください。

文化国際課長 富山市博物館等共通パスポートは富山市郷土
博物館や富山市ガラス美術館、民俗民芸村な
ど市内にある14の市立博物館等へ、購入さ
れたパスポート一種類としては年間パスポ
ートと3日間パスポートがあり、この有効期
限内であれば何度でも入館できるもので、平
成20年度から始めたものでございます。
平成27年度の富山市ガラス美術館の開館を
契機に、中心市街地での美術館めぐりを楽
しんでいただく機会を提供する目的から、先
ほど申しました民間3館の美術館と協議を
いたしましたところ、平成29年4月から共
通パスポートを提示していただくと割引料
金で観覧できるということになりました。
また、遅れて、平成29年10月からでは
ありますが、県の美術館である3館にお
きまして、同じく常設展示分を割引料
金で観覧できるようになりました。

その利用実績についてでございますが、市立博物館等は平成28年度で85万7,000人余りから、平成29年度で82万人余りと3万6,000人余り減少しております。減少率でいいますと0.3%の減となっております。

昨年度から共通パスポートの提示により割引料金で観覧できるようになった6館の実績を含めると、平成28年度の126万6,000人余りから平成29年度が125万2,000人余りと、1万3,000人余り、約1.1%の減となっております。

共通パスポートの販売数においても、年間パスポートは平成29年度が7,230枚でありまして、平成28年度が8,340枚と1,100枚余り減少しているということになります。3日間パスポートについては、平成29年度が314枚で、平成28年度が250枚であり、こちらのほうは60枚余り増加しております。

売上げにつきましても、平成29年度が1,100万円で、平成28年度が1,260万円余りと160万円余り減少しております。これらを勘案しまして、共通パスポートの販売促進を図るために、今年度はポスターやチラシを作成して販売所等に配布し、掲出して

もらうこととしておりまして、そのPRにつなげてまいりたいと思っていますところであります。

久保委員 今の御説明だと、数字的には思ったような成果が出ていないのだろうと思います。今年度からポスター等の掲示で情報の周知を図っておられるということですが、ぜひとも内容であったり、利用者の声もしっかりと調査をしていただいて、より多くの人に楽しんでいただけるように取組みを推進していただきたいと思っています。これは要望です。

佐藤委員 先ほどの主要施策成果報告書30ページの(15)の件で、オープンデータの公開には大変期待をしておりました、この数字一目標はともかく—これほど利用が多くあったということが驚きなのですけれども、この公開は元来、記載にある「民間企業等の公共データの利活用や新事業の創出につなげるため」ということが元々の目標でしたので、そういった意味から、主な成果についての評価をお聞かせいただきたいと思っています。

情報統計課長 委員がおっしゃるとおり、こちらのほうについては民間の利用が1つの目的です。また、

市が保有するデータの二次利用という形で公開するということがございます。

それがどれくらいあるのかということについては、ちょっと把握しきれていない部分はございますけれども、例えば今、国のほうで推奨されておりますデータセットーデータ分類をあらわすものをデータセットと申しますけれどもーそれが14種類ございます。今、市のほうではこの14種類中8種類のデータセットがございます。これは市の目標ではございませんが、国が推奨しております14種類に限りなく近づける、当然それ以外についても今後は含めていかないといけないというところで、上限というわけではなくて、できるものは全てやっていきたいという姿勢でこのオープンデータに取り組んでいるところでございます。

佐藤委員

庁舎内での共有ということは当然あると思うのですけれども、やはり民間の、市内の新たな事業等につなぐことを期待しているのです。もう少し具体のお話というのはあるのですか。

情報統計課長

今、データではお示ししてありませんが、利用状況を分類いたしますと、飲食店の配置図とか理容業一床屋さんの配置図などが、ダウ

ンロード数の一番多いものとなっております。
詳細までは分類しておりませんが、これはやはり商業者の利用が一番多いというもので、現状で申しますと、一般の市民の御利用よりもこういう商業者の御利用のほうが進んでいるのではないかと考えております。

佐藤委員 いずれにいたしましても、庁舎内でプロジェクトチームも組んでおられるということなので、期待をしたいと思います。

高田委員 私も何点か質問します。
最初に、主要施策成果報告書27ページの（1）の最後のほうに、職員の資質向上に取り組んだと書いてあります。
私は常々富山市職員の方は大変勉強をされていると思っているわけですが、この成果についてお聞かせ願います。

職員研修所長 職員研修の成果ということで、資質向上の点でいいますと、内面の変化なので数量であらわすのはなかなか難しいことだと考えております。
ただ、一例を申し上げますと、派遣研修、特に省庁に派遣されている職員というのは、一様に事務処理能力一事務を進める速さですと

が正確さといったものがごく短期間の間に著しく向上しているというふうに見ております。これは派遣されている職員自身が申しております。「爆発的に多い事務量というのをこなさなければならないという非常に厳しい状況の中で、どんどん自分の能力が研ぎ澄まされている」と申しております。

2つ目でございますけれども、省庁以外に、民間会社へ派遣されている研修もあります。私どもの職場と違いまして、大変自由な雰囲気があるというふうに申しております。その中で社員同士が意見交換を非常に活発にしている、先進的な意見が出てきていると、その中でいろいろなアイデアが採用されて事業化されていく、そういったことを目にしていた職員が本庁に帰ってまいりまして、たまたまことし係長になりました。その民間会社の雰囲気というものをぜひ自分も取り入れていきたいと申しております。現在、係運営についてはみずから発信するというのもそうですけれども、係員からも意見を求めるような形で、非常に活発な、活気ある職場づくりをしているということでございます。

今までの話は個人でございましたけれども、一方組織としてはどのような成果があるかという点でございます。こちらも一例ではござ

いますけれども、昨年度ジェットロ・ミラノ事務所に派遣されている職員がおりました。昨年9月の議会だったと思いますが、市長も本会議において、エゴマオイルの売込みということで非常によく頑張ったと発言されておりました—これは研修そのものではなく、富山市の職員として、またジェットロの職員として非常に頑張ったという結果でございますが、地元の飲食店ですとか小売店のほうでこの取扱いが始まったということを知っております。これは市として—一部の事業でございますけれども—成果として言えるのではないかと考えております。そして帰庁後でございますけれども、ジェットロでの事業展開の手法というものも持ち帰ることができていると考えております。これは将来の富山市の事業展開において非常に大きな財産であるかと思っております。もう1点ございますけれども、省庁において国の補助事業で交付金などについての担当をさせていただいている職員がおります。これは国の考え方—国が自治体の事業をどのように見ているかということを知る、非常に貴重な機会であるというふうに考えております。その事業についてのいろいろな見方や考え方、そして国の担当者がどのような形で採択していくのかといったような実際のノウハウを身

につけることができる、翻りまして一富山市に帰ってまいりました後ですけれども、私どもがこの事業の採択に向けて申請をする場合、その勘どころといったものを知っているわけでございます。このため、国に対して事業を申請する場合に、その知見を利用しまして採択に結びつけることが多くなっていくかと思えます。

そしてまた、国が新しい事業をつくりだした場合でございますけれども、国の職員に対するネットワークがございますので、「富山市さん、どうでしょうか。このような事業をやってみませんか。第1号ですよ」といったようなお声かけがあるといったことも聞いております。これも1つ、市にとっての大きな成果であろうかと思えます。

高田委員

とにかくすばらしい成果が上がっているということで、これからも期待をしていきたいと思っております。

次に、主要施策成果報告書28ページ(5)の多様な働き方推進事業について、市内企業へのアンケートということですが、この内容と、どういう方を対象に、どれくらいの数に調査されたのかということをお伺いいたします。

企画調整課長 まずこの調査につきましては、平成29年度は教育機関に対しまして、高校・大学等の別に、進学や就職の傾向、進路選択における課題、学校の進路指導方針について、訪問によりヒアリングをしたところでございます。学校数につきましては全体で22校で、内訳を申し上げますと市内の高校が12校、専門学校が2校、あとは高等専門学校が1校、県内の大学が3校、県外の大学が4校です。

それから、企業に関しましては、採用の状況や賃金の状況、離職の状況などをウェブアンケートやヒアリングにより調査しております。これにつきましては市内に営業所を置く企業419社にアンケートを行いまして、そのうち106社から回答を得ているところでございます。

高田委員 そうしたアンケートをとったその成果はどういうふうに生かされているのでしょうか。

企画調整課長 結果の概要ということになりますけれども、例えば進学の状況ということで、調査対象となった市内の高校では、全体の約7割が進学されており、そのうち6割が県外に出ておられまして、全体の比率で言いますと約39%が県外に進学されているということがわかり

ました。

それから、進路指導に関しましては、やはり高校の段階では父兄の意向というものが非常に大きく作用しているというようなことですか、高校の段階においてライフプランを念頭に置いた進路指導を行っているところが約半数であるというような結果がわかったところでございます。

それから都内の大学に進学した都外出身者の7割が、就職において都内にとどまっている、要は東京に残ったままというような結果もわかっているところでございます。

それから企業に関する調査ですが、中小企業の人手不足の状況ですとか、全体として女性のU・I・Jターン比率が高まっているということ、それから30歳未満の女性の離職率が比較的高いというような結果が得られているところでございます。

結果としてはさまざまですが、これらの実態調査をもとに、今年度は生活実態調査というものをやっております、それらを取りまとめまして、全体として多様な働き方の提示というところに生かしてまいりたいと考えております。

高田委員

貴重なデータだと思いますので、しっかりと

有効に使っていただきたいと思います。
続けて、主要施策成果報告書29ページ（11）イで、ラベンダーひすいの紫苑色と、コバルトひすいの青磁色の新色2色の開発に取り組んで、製品になったと先ほど説明の中で言われたのですが、どういうふうな製品になったのか、その成果についてお聞かせください。

企画調整課長 平成29年度でございますが、株式会社広貫堂とのコラボレーションにより新色2色を開発しまして、それまでにあった2色を加えた計4色でエゴマボトルというものを製作しております。平成29年度は試作でございまして、平成30年度にこのボトルを200本製作しております、納品済みでございます。これは広貫堂さんで販売されるのですが、こういう新色というのは、富山を表現する素材として実は高い評価を受けておりまして、先ほど申しました株式会社三越伊勢丹とのブランド開発の試作品としても取り入れる予定で、現在進めているところでございます。

高田委員 大変期待していききたいと思います。
それに関連して、富山ガラス大賞展2018を今開催されていて、応募も大変たくさんあ

ったということです。主要施策成果報告書101ページで、平成29年度において作品募集などの準備を行ったということで890万円を使っておられるのですが、これはどういった内容で使われたのかお聞かせください。

ガラス美術館次長 890万円の主な内訳として、3点申し上げます。

まず1点目が、特別旅費として約140万円余りで、これは大賞展のPRですとか、作品の募集、あとは審査員への就任依頼のために館長と専門官がアメリカとチェコへ出張した経費でございます。

次に、広告料として約200万円余りで、こちらにつきましては国内や国外の美術専門誌へ広告を出した経費でございます。

3点目ですが、委託料として約200万円余りで、こちらのほうはポスターやチラシのデザインの制作を委託した費用、あとホームページを開設しておりまして、そのホームページの制作や管理に要する費用でございます。

高田委員 その成果により、作品があれだけたくさん集まったというように捉えてよろしいですか。

ガラス美術館次長 そう思っております。

高田委員 委員会資料2ページで、先ほど言われましたガラス大賞展2018の委託料が不用額となっております。今お話をお伺いした中で、これだけ準備をやってきて使っていなかった不用額というのは、どういうものなのかお伺いします。

ガラス美術館次長 委託料での不用額の103万円余りですけれども、先ほど申しましたポスターやチラシのデザイン業務をコンペで行いまして、費用が抑えられたということが主な理由で1点あります。

それから、ポスターやチラシの郵送なのですけれども、これまで郵送をメインに考えておりましたが、それをメールですとかホームページを活用することで、費用を抑えたという点が1点です。

それら2つを加えたものが103万円の不用額につながったということでございます。

高田委員 メールとかはもっと早く気づくべきだったと思うのですが。

それはそうとしながらも、世界に発信する1つのすばらしい成果だったかなと思います。部長、何か思いがあれば。

企画管理部長 昨年館長と専門官がアメリカとチェコに行きガラス関係者に会って、そして審査員も依頼してきた、まさにその成果が世界46の国と地域から1,110点もの応募作品—これは本当に想定外でした。

金沢市でも国際ガラス展をやっておりますけれども、その応募数をはるかに超えた、作品の応募数が倍以上あったということで、これはまさに昨年度の活動の成果だというふうに感じております。

東委員 主要施策成果報告書96ページの市民文化振興事業について、この事業数や入場者数の実績なのですが、記載の3つの事業では概ね右肩上がりで増えてきているのです。しかし、入場者数を見ると平成27年度と比べて平成28年度は増えたのですが、平成29年度になると半減近くということになっております。この要因についてどういう分析をしているのかお伺いします。

文化国際課長 平成28年度におきましては、舞台の上の美術館ということで、オーバード・ホールで美術館を開催しました。そのときに、入場者数が大体8,380人ございました。平成29年度に入場者数が減った要因としま

しては、比較的ステージオンステージで一ステージの上でステージをやるという、定員約200人ぐらいの小さい催し物だったり、あと科学博物館のプラネタリウムを使ったナイトミルクといったような事業であったり、婦中ふれあい館や市民プラザを使った事業が多かったということで、入場者数が減ったというふうになっております。

東委員

そういうことがわかるように、備考のような形で来年度以降書いてあるとありがたいと思います。

続いて、その下の富山市美術展開催事業の関係です。こちらでも平成27年度から見てみると、入場者数が漸減しているという結果が出ておりますが、減少している要因について、所感なりをお願いいたします。

文化国際課長

お示しのとおり、3年間の数値を並べておりますが、少しずつ減ってきていまして、展示の応募をしている方が減ってきていることもあるのですが、会場などについても工夫しながら今現在一昨年までは2カ所に分散して開催していたのですが、今年度からは1カ所で、比較的皆さんが来やすく、1回で見てもらえるようなところであることを今考えてお

ります。そういったことが要因だったのかな
とっております。

東委員

せっかくの美術展ですから、入場者数がしっ
かりと増えていくような工夫もしていただき
たいというふうに思います。

続いて、その下の市立博物館共通パスポート
事業についてです。先ほども久保委員から質
問がございましたが、3日間パスポートの販
売枚数は、この3年間増えているということ
なのですけれども一利用回数も増えています
ね。ただ年間パスポートのほうがずっと落ち
込んできているということでありまして、先
ほど、来年に向けて何かポスターなどもつく
りたいという話もございました。

原因をしっかりと精査、分析しないと、ポス
ターをつくっても有効なものになるのかとい
うこともありますので、この減っている要因
について分析されたのかお伺いします。

文化国際課長

平成27年度にガラス美術館がオープンした
というインパクトが大きかったことと、ファ
ミリーパークで御利用されておられる方もい
るのですが、孫とおでかけ事業などの関係も
あって若干減っていつているようなのです。
先ほども申しましたけれども、販売所のほう

にポスターを掲示するだけではなくて、販売するときにも、例えばこういう券がありますというようなことを利用される方に一言話ができないかということも合わせて取り組んでいきたいと思っております。

東委員 芸術のまち富山・文化のまち富山でもありますので、しっかりとPRのほうをまたよろしくをお願いします。

上野委員 主要施策成果報告書99ページで、ライフライン共通プラットフォームによる暮らしの質向上事業とあるのですが、事業経過はわかるのですけれども、この成果についてお聞かせください。

情報統計課長 道路損傷システムを平成28年度に策定いたしまして、平成29年度に関係課のほうで試用期間一試し運転といたしますか、試しに使っていただいております。

将来的には民間開放ということを考えているのですけれども、それを使って、使い勝手とか、またルール策定を実施しております。今年度実証実験をしているのですけれども、そういったものを検証しております。

あとは、このプラットフォーム上にはデータ

セットでデータを載せる形になっているのですけれども、平成29年度は水道管やバスなどの路線図を掲載いたしました。以上です。

上野委員 ホームページのほうも見させていただいたのですけれども、最終的には民間のほうに公開していくといった意思はあるようですが、現時点で市民に何か広報されるということは考えておられないのですか。

情報統計課長 広報ですか。

上野委員 市民の方への公開に向けて、今こういう取り組みをしているのですとか、経過を公開していくことはないのですか。

情報統計課長 今現在は公開しておりません。昨年度から今年度にかけて、運用のためのルールづくりとか、今後民間事業者が利用するためのことをやっております。

上野委員 ごめんなさい、ちょっと言葉が悪かったのですけれども、先進事例の研修会とかの取り組みがあったのですが、その内容がわからなかったもので、それについて公開等はされないのですか。

情報統計課長 今ホームページ上では公開しておりませんが、非公開ではないもので、一応公開はできるのですけれども、特に需要がないので公開ということには至っていません。

上野委員 わかりました。そうしましたら、せっかく経費をかけていることなので、どういった経緯があったのかということをごひわかるようにしていただければと思います。

委員長 要望ですね。
ほかにありませんか。

〔発言する者なし〕

委員長 ないようですので、以上で質疑を終結いたします。
これをもちまして、企画管理部所管分の決算審査を終了いたします。
企画管理部の皆さんは、退室願います。
説明員を交代いたしますので、しばらくお待ちください。

〔企画管理部退室／財務部入室〕

委員長 これより、財務部所管分の決算審査を行います。

す。

認定第1号 平成29年度富山市一般会計歳入歳出決算中、財務部所管分、

認定第2号 平成29年度富山市公債管理特別会計歳入歳出決算、

認定第3号 平成29年度富山市駐車場事業特別会計歳入歳出決算、

以上3件を一括議題といたします。

なお、当局の皆さんに申し上げますが、答弁及び説明については、簡潔・明瞭に行っていたいただきますようお願いいたします。

これより、当局の説明を求めます。

財務部長 〔挨拶〕

財務部次長 〔主要施策成果報告書及び
委員会資料により説明〕

委員長 これより、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

久保委員 まずは、主要施策成果報告書31ページの（
1）事務事業評価についてお伺いしたいと思います。
この中では政策的経費990事業を対象に総合的評価をして、34事業を見直したとあり

ますが、見直しの内容は具体的にどのようなものなのか説明を求めます。

財政課長

事務事業評価につきましては、政策的経費990事業を対象といたしまして評価を行っております。結果としましては平成29年度では廃止・休止というものが8件ございまして、これによりまして2,800万円余りの事業費の削減効果があったというふうにしております。

また、縮小というものもありまして、これが8件ございまして2億2,600万円余りの事業費の削減効果があったというふうにしております。

こういったもののほかに整理・統合や終期設定などという評価もしてございまして、これらを全て合わせますと、平成29年度は34事業の見直しで2億5,200万円余りの削減効果があったというふうに行っているところでございます。

内訳の主なものとしましては、1つに労働団体等への各種補助金及び負担金の縮小がございまして、これで約1億9,300万円の削減、2つに牛岳温泉健康センター特別事業会計の繰出金の縮小がございまして、約2,100万円余りの削減といったものなどがござ

います。

久保委員 事業の見直し後、事務事業評価の結果というものは、何にどのように反映しているものなのですか。

財政課長 事務事業評価につきましては、予算編成に合わせて、政策的経費の要求に先立って各部局において評価を行っているものでございます。したがって、事務事業評価の結果につきましては次年度の当初予算に反映していくということになっております。今回の平成29年度の事務事業評価の結果につきましては、平成30年度当初予算に反映しているということになりまして、先ほども申しました事業費の削減効果というものも平成30年度当初予算と平成29年度当初予算との差といいますか、その結果を削減効果というふうに申しているところでございます。

久保委員 まず当局の中でしっかりとこういったチェックをされながら、事業それぞれを見直ししていただいているということで大変な御苦労だと思います。あわせて、主要施策成果報告書32ページ（6）市債権の一元化による回収整理対策につ

いて、お伺いをしていきたいと思えます。市債権の徴収というのは当然、最終的な目標は100%ということだと思えますが、現実的には100%という目標を掲げていてはなかなか実態がつかめない部分もあるのかなと思っております。

当面の目標といえますか、現実的な努力目標としてどのような目標を設定されているのかお聞かせください。

債権管理対策課長

市税等をはじめ、主要債権が18債権—強制徴収公債権が7、その他の債権が11—これらを計画的に、効果的に回収するために、また、さらなる収入確保による財政基盤の強化や公営負担の原則を堅持するために、債権管理委員会の審議を経て毎年度、徴収計画を策定しているところでございます。

平成29年度の徴収計画に掲げる目標収入率については、市債権の大層を占める市税では現年度は99%、滞納繰越分が19.15%、合計で94.81%を見込んでおります。

主要18債権の合計では現年度が97.38%、滞納繰越分が34.52%、合計で93.13%に設定しており、市全体として基本目標値を達成するように努めているところでございます。

久保委員 目標収入率を達成するように努めているという御説明でしたが、まずこの目標値を達成するために努めた結果、どのように改善されたのか答弁を求めます。

債権管理対策課長 平成29年度の市税の収入状況につきましては、現年度は99.05%で前年度より0.1ポイント増となっております。滞納繰越分につきましては20.79%で前年度より2.66ポイント増となっております。合計では94.94%で前年度より0.65ポイント増となっております。

さらに主要18債権の収入状況につきましては、現年度が97.39%で前年度より0.01ポイント減、滞納繰越分におきましては36.59%で前年度より2.68ポイント増、合計では93.54%で前年度より0.42ポイント増となっております。

平成29年度末の債権総額は現年度・滞納繰越分を合わせて1,201億9,400万円余りであります。

また、全体の収入率の推移は、平成27年度が92.8%、平成28年度が93.12%、平成29年度が93.54%と年々向上している状況でございます。

久保委員 年々向上しているということはわかりました。今、数字を説明していただいた中で、実際にこの目標数値と比較した場合、平成29年度の達成状況についてはどうなっているのか答弁を求めます。

債権管理対策課長 平成29年度の市税の目標収入率に対する実績としては、現年度が99.05%で目標収入率より0.05ポイント増、滞納繰越分におきましては20.79%で目標収入率より1.64ポイント増、合計では94.94%で目標収入率より0.13ポイント増となっております。

主要18債権の目標収入率に対しましては、現年度が97.39%で目標収入率より0.01ポイント増、滞納繰越分におきましては36.59%で目標収入率より2.07ポイント増、合計では93.54%で目標収入率より0.41ポイント増となっております。

久保委員 目標はしっかりと達成されたということだと思います。経済的な状況であったりとか、なかなかこの徴収業務に関しては大変難しい中で大変な御苦勞をされているというふうには私もしっかりとわかっているつもりなのですが、その中でこういった実績で、目標値を達

成されているということは大変すばらしいことだと思えます。

この目標値に対しての回収実績について、実際に目標を達成できたという原因をどのように分析をされているのか、答弁を求めます。

債権管理対策課長 全体収入率は年々向上しております。これは部局間の連携を強化し全市一体となって回収・整理に努めた成果と考えております。

久保委員 部局を横断して、しっかりと努めていただいたということで、これは今年度、また次年度以降にも続けていっていただきたいと思えます。

最後に、主要施策成果報告書については、昨年、この決算特別委員会の委員長報告でも、過去の実績等を踏まえて書いてほしいと求め、ことしは大変見やすくなりました。私としましては、大変な御努力の中でこのようなわかりやすい資料をつくっていただきましたことに感謝をする一方で、1つお願いがあります。予算額に対して利用者などの費用対効果が、年々落ちていっているというふうなものが見受けられます。当然、この決算特別委員会の場で各部局に対してこちらから原因についてお伺いしているのですが、その効果が明らか

に薄まっているのではないか、もしくは利用者数が減っているのではないかというものについては、部局の意見を成果のところ一言加えていただきますと、私たちが調査または審査するときに役に立つと思いますが、部長、お願いします。

財務部長 今の委員の御意見も参考にしながら一ことし、主要施策成果報告書のつくりは大分変えさせていただいたつもりですし、今後も見直しができる範囲については見直し、引き続き改善に努めていきたいと思えます。

尾上委員 富山市駐車場事業についてお伺いいたします。予算現額に対して1,000万円を超える減収となっているのですが、どのように分析されているのかお伺いいたします。

管財課長 まずこの予算の立て方といいますか、歳入予算なのですけれども、平成29年度の歳入予算は平成27年度の実績に対して平成28年度上半期の伸び率—増減率です—それを掛け算して出しているものですから、正直、非常に読みにくい中で出している数字だということ。それと、平成27年度は北陸新幹線が開業して、富山駅周辺の駐車場などが混

み合っていたというようなこともあるかと思
います。

そういう状況の中で、運転免許証を返納され
る方が増えたり、また市内電車環状線化事業
等で中心市街地の交通基盤が整備されたり、
あるいはコインパーキングができたりとい
うような要因もあるかと思えます。

さらに、ことしの冬は積雪が多く冬場の利用
者が減ったとか、C i Cビルで行っていた確
定申告の会場が県民会館に移って桜町駐車場
の利用が減になったというような、特殊な要
因もございます。

そういう中で、指定管理者制度を導入して経
営改善に努めているわけですが、引き続
きそういう指定管理者制度の施策等によ
り、連絡・調整を図りながら収支の改善に努
めてまいりたいと考えております。

尾上委員

富山駅を利用して旅行に行かれた方の話で、
市営駐車場に何も考えないでとめて、帰っ
てきたらとんでもない請求額であったと。最近
では、先ほども言われたようにコインパー
キングなどで上限料金制度をとっている駐車
場が多いわけなのですけれども、そういった
ことというのは市としては一それは指定管
理者制度の中なのかどうなのかということ
は私も

ちょっとわかりませんが一そういった考え方というものはないのでですか。

管財課長

まず、市営駐車場は管理人が24時間体制で常駐しているという部分で、ほかの駐車場と比べて安心して利用できるというメリットがあるかと思います。

それから、最近は屋根つき立体駐車場でも上限料金設定のあるところも増えてきましたけれども、基本的にはやっぱり足場を気にせずに、照明もついていますので夜間でも明るい中で安心して利用できるという状況の中でやっております。

コインパーキングと比べてそういうメリットがございますので、現状において上限料金の設定といった料金体系をとることは考えておりません。

尾上委員

課長が言われるように雪の心配をしなくてもいいとか、そういったメリットは確かにあるのだとは思うのですけれども、今ほど言われたようにマリエの横に上限料金つきの立体駐車場がありますし、新しくその向かい側にも何かつくっているようですし、そういったものがどんどん増えていき、市営駐車場がだんだんと使われなくなるということで、経営的

にも非常に難しくなってくるのではないかなというふうに思います。

そういったことも検討に入れながら、もう少し—当初の2,000万円の収入が見込めなかったというところは、先ほども言われたようにいろいろあって、これが真の数字ではないのかもしれませんが、もうちょっと考えていただければというふうに思っております。以上です。

委員長 要望ですね。

高道委員 主要施策成果報告書31ページ(4)入札契約制度の改善についてですけれども、今回、総合評価落札方式で浸水対策協力という評価項目を追加されましたが、そのことについて何か理由があれば教えていただきたいと思っております。

契約課長 まず浸水対策協力というものが何かと申しますと、近年集中豪雨、局地的な豪雨などで全国的に浸水被害が多く出てきております。本市としましても浸水対策は非常に重要だと思っております。
具体的な浸水対策協力といわれるものについては、建設部の防災対策課のほうで、大雨で

浸水のおそれがあるときに業者の方に出動していただき、例えば神通川だとか井田川などの川沿いの水門のところで排水を行う、排水ポンプ車の運転作業業務をやっていただいているところでございます。それが浸水対策協力といわれるものとなります。

高道委員 建設業というのは本当に人材不足とかいろいろありますが、地域に貢献している企業もたくさんあります。その中で、今後またこのような追加評価項目というものは検討されているのか教えてください。

契約課長 今回、浸水対策協力ということを総合評価落札方式の中の評価項目として入れさせていただいたわけでございます。この浸水対策協力の評価と申しますのは、これまでも総合評価落札方式の評価の考え方の中で、企業が地域性だとか社会性に貢献をしていただいて一要件は地域社会の貢献度といったものを1つの評価項目としております。

今回この評価をさせていただく以前から、例えば防災協定に参加していただいたり、除雪協力をしていただいたり、そういった企業の方の地域貢献度に対しましても評価をしてきております。

今回こういった形で評価をさせていただいたところでありまして、具体的に今後新たに追加ということは、今のところは考えておりませんが、地域のため、社会のためということで役立つようなことがあれば検討する余地はあるかと思えます。

高田委員 主要施策成果報告書102ページの固定資産地番家屋図等整備業務委託の件であります。最後のほうに「最新の状態に修正し、賦課事務の適性化と効率化を図った」と書いてあります。このことについて、少し詳しく説明をお願いします。

資産税課長 この業務に関しましては、平成29年の1年間に行われた法務局の登記の異動一例えば土地の分筆や合筆、あるいは家屋の新・増築などの情報をGISに反映させるため、データの修正作業を行うというもので、毎年実施しているものでございます。

高田委員 そうしましたら、平成28年度から比べて平成29年度はこの修正や適正化・効率化というのは、どのように進んだことになるのですか。

資産税課長 毎年必ず登記による異動というものがございまして、所有者が変わったり、あるいは土地の形状が変わったりという登記の異動はどこかです。それを常に最新の状態にセットアップしていくというものでございます。

高田委員 続けて、先ほどの市税の収入率といった考え方なのですが、中核市で見ると収入率が99%より高い市もあって、富山市は中核市では下のほうにいるのではないかと考えているのです。高い収入率の市一大分市でしたかーそういったところを参考事例にしながら研究するとか、そういった考え方はなかったものでしょうか。

納税課長 今、委員がおっしゃるとおり、平成29年度の中核市の収入率を調べましたところ、大分市が1位で、現年度・滞納繰越分を合わせて99.23%です。これに対して富山市は94.9%ということになっておりまして、順位といたしますと54市中52位ということになっております。

収入率が高い市町村のやり方等につきましてどのように取り扱うことができるかという点では、以前、平成27年度に、全中核市、特に高いところを中心に調査したところござ

います。この中で取り扱うことができるものについては随時扱うなどしてきました。

今回その中で、平成30年度補正予算で計上をさせていただいております、新滞納管理システムを導入することによってさらなる収納率の向上を目指してまいりたいと考えております。

高田委員 収入率が上位に行くように、努力をお願いしたいと思います。

上野委員 主要施策成果報告書31ページ(1)事務事業評価についてお聞きしたいのですが、ホームページで公開されております集計表を見ますと、対象事業は全ての政策的経費の事業ということになっているのですが、ただし書きで事業再点検において再点検チームの検証結果が出ている事業については対象外とあったのです。

平成29年度では対象外のものは何件ほどあって、どういう事業だったのでしょうか。

財政課長 事業再点検におきまして一今、手元にデータがないので件数は把握していないのですが、私どもが予算要求をいただいております事務事業の中で、丸々その事業再点検として結果

が出てくる事業もございますし、一部のみという事業もあるものですから、完全に一致することはないというふうには思っております。単純に政策的経費から何件減ったという考え方はちょっとできないかなというふうには思っております。

上野委員 件数としてあわせないとしても、どういった見直しがされたのかということはたぶんわかるかと思しますので、もし可能でしたらその内容等も公表していただければと思います。要望です。

委員長 要望ですね。
ほかにありませんか。

〔発言する者なし〕

委員長 ほかにないようですので、以上で質疑を終結いたします。
これをもちまして、財務部所管分の決算審査を終了いたします。
お諮りいたします。
本日の委員会は、この程度にとどめ、散会したいと思います。
これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

御異議なしと認めます。

次回の一般・特別会計決算特別委員会は、あす10月23日（火曜日）の午前10時から開き、議会事務局、都市整備部（活力都市創造部）、建設部所管分の決算審査を行いますので、御承知おき願います。

本日は、これをもって散会いたします。